

ロータリー一月間 今月:地域社会の経済発展 来月:ロータリー財団

「高萩 RC 創立 50 周年記念」

10月14日例会より

『公共イメージ向上』

＜石君平：公共イメージ向上委員長＞

1. 高萩 RC で公共イメージ向上委員会に変更した年度。2017～2018 年鈴木直登会長年度に「クラブ広報・会報委員会」⇒「公共イメージ向上委員会」と名称変更

2. 第 2820 地区で公共イメージに触れた年度
RI 第 2820 地区や高萩 RC の目標に公共イメージについて触れたのは 2008～09 年度の長期計画から。次の 3 から 6 までは、第 3 ゾーン公共イメージコーディネーター補佐の伊藤文利氏の「公共イメージ向上作戦・ロータリーのブランドを高めるために」から引用



3. 広報から公共イメージ向上に変わった経緯—RI の長期計常任委員会へ

2007 年 RI は長期計画（長期戦略計画）をスタートさせた。＜ロータリーの使命＞—職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人びとに奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進すること。

＜中核となる価値観＞—組織の考え方と方向性を定める原動力であり、戦略計画においても重視される要素です。—奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ。RI の長期計画は CLP、DLP を導入し、「クラブのサポートと強化」

「人道的奉仕の重点化と増加—財団強化」、「公共イメージと認知度の向上—広報の強化」の 3 点を押し進め、ロータリーの発展を期する一方、CLP ではクラブ管理組織を改編し、4 代奉仕委員会体制（クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕委員会）から、5 大常任委員会（長期計画の重点 3 分野の会員組織、財団、広報の 3 委員会と管理運営と奉仕プロジェクト）とした（注）：CLP の目的は、効果的なクラブ管理によりクラブの強化を図る。効果的クラブとは①会員基盤の維持・拡大②奉仕プロジェクトを実施③財団を支援④指導者を育成する。効果的クラブとは①会員基盤の維持・拡大②奉仕プロジェクトを実施③財団を支援④指導者を育成する。

4. 日本の RC では広報はマイナー扱いされてきた。以前は、日本の RC では「広報」がマイナー扱いされ、広報活動は軽視されてきた。奉仕活動についての広報が十分でなく、ロータリーは一部の市民から金持ちの昼食会と誤解されてきた。記念物を建立しても、後面の片隅に小さくクラブ名を刻むだけで、いわゆる陰徳の精神が奨励され、どんなに良い奉仕をしても市民には我々の善意が十分に伝わらなかったし（伝えていなかったと言った方が正しいでしょうか）、地域社会にも正しく理解されていなかった。RI は広報の強化を図り、諸々の情報を「内部への広報」として、地区、クラブに流し続けてきた。一方、クラブの夫々の奉仕活動について地区を経て RI に報告するよう最近奨励されてきた。

月 日	プログラム	担 当	10月 14日 出席報告		
			会員数	出席者	欠席者
10月21日	イニシエーションスピーチ	プログラム委員会	34	22	10
10月25日	創立 50 周年記念例会	50 周年実行委員会	出席率：68.75%		
10月28日	振替休日		前々週訂正：96.77%		
11月 4日	「卓話」ロータリー財団	ロータリー財団委員会			

事務所：〒318-0033 高萩市本町 2-65
常陽銀行高萩支店内 TEL/FAX：0293-24-0505

■ URL <https://www.takahagirc.jp>

■ E-Mail : takahagi-rotaryclub@h7.dion.ne.jp

会 長：田所 和雄

幹 事：大河原 浩

例 会：毎週水曜日 12:30～13:30

公共イメージ委員：石 君平 和田昌也 小森勇一 大高司郎
棚谷 稔 石 平光 今川 隆 大平敏明

四つのテスト

言行はこれに
照らしてから

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

このような実績と戦略計画の周知徹底の結果、ロータリーに関する積極的「外部への広報」やそのスキルも少しずつではあるが洗練され、形が見えるようになってきた。世界各地や日本のロータリー奉仕活動が、クラブ側からの働きかけによっていろんなメディアに取り上げられ広く社会に詳しく報じられるようになってきた。

5. RI は広報強化に IT 活用



特に、RI が熱心に進める SNS（フェースブック、ツイッター、ブログ等）のような IT 活用による PR 戦術は将来ますます発達すると考えられるので、遅れをとらないようにしたい。

—高萩 RC では大高司郎会員の個人的能力で RI 第 2820 地区でも外部への情報提供は先頭にいるが、これからは特に若い会員を中心にして、全員に係るようにレベルアップをしたい。

6. ロータリーのブランド化

ロータリーは 110 年以上の長きに渡り「超我の奉仕」を黙々と実行してきたが、RI によると創立 100 周年時の調査で、ロータリーの地域社会における認知度は残念ながら 20%とまことに低く嘆かましい。そのため、RI はロータリーのブランド向上を強く推し進めてきた。

ブランドとしての認知度の低いロータリーを有名ブランドに育て上げるのが我々の仕事である。しかし、ブランドとして認知されるのはロータリアンの力ではなく、最終的に市民の選択であることを忘れてはならない。市民にロータリーをブランドとして認識してもらうには、普段からコツコツとクラブが、会員個人が地域で奉仕活動を続け、まず「認知」してもらい、「信頼」してもらい、「好意」をもってもらう、そして今後「期待」してもらい、この繰り返しがロータリーブランド醸成の素地だと認識すべきであろう。大切なことは、我々ロータリアン一人一人が、誰からも尊敬と信頼される社会人・職業人として存在することが最高の広告塔であり、ブランディングの礎石である。—ここまでは、伊藤文利さんから引用—

7. 情報化社会では認知度向上には情報の発信。

今まで、ロータリーは他の団体と比べて広報が下手だと言われてきたが、ロータリアンとしては、常にバッジをつけて常に動く広告塔としての意識を持つことです。—ライズクラブは、大きな街

頭看板を出したり、ショッピングセンターでの献血運動、チャリティゴルフなど広報は上手である— 情報化社会では、自らアピールしないと組織は社会から取り残されてしまいますから、地域での奉仕プロジェクトを必ず地域に発信し、ロータリーはこのような活動をしているということを理解してもらうことが、ロータリーの認知度向上を確実にしていく鍵とされています。すなわち皆でする大きな奉仕 (We Serve) こそが注目され、大切ではないかと RI は言うわけです。RI は、I Serve → We Serve へ舵を切っています。その具体例として、ポリオ根絶活動でのロータリーのリーダーシップは、ロータリアンに対する評価を世界中で高めるものになり、同時に地域や全世界で人々を助けることに貢献的で、行動志向の団体として知られることになりました。

8. RI は、財団を中心にして奉仕プログラムの実施

さらに、RI はロータリー財団を前面に出して、人道奉仕の対応をクラブにも地区にも求め、世界で No1 の奉仕団体になることを目指しています。「ロータリーは親睦と奉仕」と言ってきたが、最近 RI は「親睦も大事だけれども、財団を中心にして奉仕プログラムを実施することが大事だ」という考え方に代わってきていることも肝に銘じる必要があります。—ロータリー創立以来の奉仕の理念追及を軽視するのではなく、奉仕の理念を展開するために奉仕プログラムを重視すべきと変えてきているのではないのでしょうか。その為にも、市民の理解と抛力を得て、市民と協力して地域で質の高い奉仕プログラムを実施し、多くの会員・市民が参加し、それを地域に上手に発信していくことにより、結果的に認知度も向上します。

9. 高萩 RC の公共イメージ向上のために実施していること、過去の実施したこと。会報の発行：①

最初の 30 年は印刷所に原稿と写真を持ち込み会報を印刷 (900 千円) ②その後 10 年間は、会員が PC で会報を作成しプリント、費用圧縮と時間短縮 (400 千円) ③2010 年 1 月から HP にアップし更に費用圧縮と時間短縮 (200 千円)、①②は会員や他クラブへの報告、③から外部への情報発信。茨城新聞「ロータリー情報館」—地区の企画で各クラブ年一回掲載。新聞、地域コミュニティ誌、市報に奉仕活動を掲載。新聞社への「ニュースレター」投げ込み。個人的に記者知っていれば声掛け。「ロータリーの友」に英語スピーチコンテストを投稿。神宮寺団地、KDDI、上君田に桜の植樹をして看板や標識を設置。「高萩 RC 広報版」奉仕活動を 4 ペ

ージにまとめ新聞に折り込み。アジサイロードにロータリーの看板。周年事業で、四つのテストの石碑やブロンズ、時計、さくら宇宙公園の門標碑設置、図書館に「ロータリーの友」雑誌コーナーで閲覧、ロータリーデーで市民に写真を展示しPR、2009～10年度にHP開設、20018～19年度HPにブログ・Facebook、2019～20年度高萩FM「ロータリー情報館」開始。催事や奉仕活動で「のぼり旗」を立て、会員はロータリーのマークがついたジャンパー・ベスト着用。50周年記念事業「ポリオ根絶看板設置」・「小中学校へのロータリー関係図書贈呈」

10. 認知度UPを計画的にどう見るか。

高萩において認知度UPの計数的考察(20%からどうUPしてるのだろうか)。あくまでも仮定の話したが、新たに高萩RCについて理解した方を計数的にどうとらえるかを考えてみました。出前講座：学年250名として家族を含めて認知度20%とすると、毎年600名が高萩RCを知ることになる。英語プレゼンテーション：40人参加し、家族を含めると90名。少年柔道大会：新規参加者10名で家族を含め25名。FMの聴取者：たかはぎFMでは視聴率5～10%—10,000世帯で1,000名、以上甘く見て、毎年600名は新たに高萩RCを認知してくれるのではなでしょうか。10年で6,000人であり、認知度は20%UPする計算。高萩RCの出前講座や英語プレゼンテーション大会の参加者は、ロータリークラブの活動や会員について身近に知ることから、単に看板やチラシでロータリーの名称を見ることにより、深く意識に入りこむ筈である。さらに、高萩RCでは、以前10回ほど開設したチャリティコンサート等の長年の活動により、かなりロータリーの認知度は高いとみられる。

FM担当の今川隆です。公共イメージ向上活動として、高萩FMで月2回



30分枠で「高萩RC情報館」というクラブの番組をやっており、来月で第8回放送になります。ネタが切れそうになっても、パーソナリティーの「みぼりん」さんが市民目線の観点で題材を提案してくれています。高萩RCの活動が市民にも届くような番組構成を心がけています。又、公共イメージのアップが会員増強に繋がっていくと思います。「高萩FMチャレンジBOX」の枠は3カ月ワンクールで12月の第9回放送で一区切りと考えています。課題：次年度へ引き継いでいくのに、若い会員が仕事をしながらでも誰にでも出来て、クラブの奉仕活動に参加していけるようにするためにはどうすれば良いか。一回の収録につきスタジオ利用料、編集

料、パーソナリティー進行、収録補助などの経費がかかるが、その費用の拠出困難のために、リスナーの多い良い番組がなくなっていく現状があります。そこで、クラブがFMに番組を提供していく方向ではどうか。『そこで、クラブの方針に叶う番組であれば、番組スポンサーとなりCMを付けた番組を提供していく方法も検討してはどうか?』

<田所和雄：会長挨拶>



皆さんこんにちは。10月も半ばになり秋が深まってきました。

11日(日)には、オンラインのZOOM会議による、ロータリー青少年育成プログラ

ム、「RYLA」セミナーがありました。ZOOM会議に参加して、戦場カメラマンの渡辺陽一さんの講演を聞きました。戦争や紛争があるイラクやパキスタンなどでは、子供が化学兵器による後遺症に侵されたり、食糧が不足したり、教育が受けられないなど、子供の成長が阻害されているという、戦場カメラマンの目を見たお話をしていました。ロータリーでは、2月を平和構築と紛争予防月間としていますが、困難なことではありますが、この紛争予防のテーマはとても大事であると思います。ロータリーの友の10月号に掲載してありますが、8月25日に、アフリカ地域の野生株ポリオウイルスの根絶が宣言されました。世界保健機構(WHO)が正式に発表したものです。これは、国際ロータリー(RI)が、最優先事業として掲げてきたポリオの世界的根絶に向けた、歴史的かつ重要な前進となるということです。アフリカ地域では、1996年には、7万5,000人の子供がポリオによる麻痺を患っていたそうです。同地域のポリオ根絶に対するロータリアンからの寄付は、これまでに約8億9,000万ドルになるそうです。高萩ロータリークラブでも、毎年ポリオプラスの寄付をしており、昨年の小森年度は、一人当たり30ドル、合計900ドルの寄付をしました。今後ともポリオプラスについて理解を深めると共に、ポリオプラスの寄付を進めて行きましょう。

10月24日は、「世界ポリオデー」になっています。10月21日(水)午前11時から、50周年記念事業の「ポリオ根絶(END POLIO)の看板設置」の除幕式を施行します。これは、ロータリークラブが、ポリオ根絶に積極的に取り組んでいることを宣伝して、ロータリーの公共イメージを高める絶好の機会だと思えます。

本日の例会は、公共イメージ向上についてです。昨年度から、たかはぎFMの番組で、新たな公共イメージ向上に取り組んでいるところであります。

今日は、高萩ロータリークラブ情報館の放送でお世話になっております、FM放送パーソナリティーの石濱美穂子様、通称「みぼりん」様にお越しいただきました。お忙しいところありがとうございます。公共イメージ向上委員会の皆さん、よろしく願いいたします。

<大河原浩：幹事報告>

R財団寄付明細：常陸太田 RC より週報：米山記念奨学会よりハイライトよねやま 10月号：常陸太田 RC クラブ創立 60 周年記念誌：新井和雄ガバナーエレクトより 2021-22 年度地区委員推薦依頼：RI 日本事務局より My ROTARY のリニューアルに伴う修正中の問題について

<委員会報告>

鈴木国男記念事業委員長：最終看板写真を回覧。
10月21日（水）11：00～看板の除幕式案内。
小森勇一記念誌委員長：記念誌の体裁が完成、自分の記事も確認依頼。

<お客様ご挨拶>

石濱美穂子様：たかはぎ FM パーソナリティー。本日はお招きいただきありがとうございます。高萩 RC は、「たかはぎ FM」のスポンサーさんであり、一日 2 回 「私たちはロータリー、世界を変える行動人、高萩ロータリークラブ」と読み上げさせて頂いています。昨年 12 月の英語プレゼンテーションの司会が縁で、「たかはぎ FM チャレンジ BOX」をご利用いただいています。4 月からスタートして 7 回を放送。奉仕の理念やボランティア紹介など、毎回 30 分、素晴らしい内容で、私も番組を通して高萩 RC さんの大ファンとなりました。



表彰

第 16 回米山功労クラブ表彰
高萩ロータリークラブ



認証（恒久基金寄付）
ベネファクター
田所 和雄 会員



認証（年次寄付）
ポール・ハリス・フェロー
大河原 浩 会員



例会終了後：滝徳宗会員（医療法人 滝川医院院長）のご厚意により、例会場でインフルエンザの予防接種をして頂きました。会員一同、これで今年の冬は安心して過ごす事が出来ます。ありがとうございました。



【10/14 お客様】

たかはぎ FM 石濱 美穂子 様

【メーカーアップ】

10/9：高萩 RC 指名委員会
鈴木啓志、大高司郎、石君平、棚谷稔
田所和雄、鈴木直登、大河原浩

10/11：第 2820 地区 RYLA セミナー
（オンライン）小森勇一、大高司郎、田所和雄

【ニコニコ BOX】

石君平さん：本日、プログラム担当します。よろしく。
和田昌也さん：日々、深まる秋。年々短く感じます。
沼田操さん：10月に入って秋晴れの日がないですね。
今川隆さん：みぼりんさん！！ようこそ！！すごーく楽しみにしてました！
田所和雄さん：50周年記念例会が間近になりました。万障繰り合わせの出席を宜しくお願い致します。
小森勇一さん：ミボリンさん、ようこそ。いろいろお世話になります。
大高司郎さん：滝徳宗会員のご厚意「インフルエンザの予防接種」に感謝して。風邪を引かないように頑張ります。
花園文熙さん：秋らしくなり、創立 50 周年記念日が近づいて来ました。
棚谷稔さん：滝先生お世話になります。痛くないようにお願いします。
石川武信さん：滝先生、インフルエンザ予防接種お世話になります。
石平光さん：いよいよ秋本番、朝夕涼しくなってきました。コロナを早く収束して秋を楽しみたいですね。
大河原浩さん：みぼりんさん、ようこそ高萩 RC へ。滝先生予防接種、ありがとうございます。
大平敏明さん：滝先生、本日の予防接種よろしくお願いします。大変助かります。

佐藤利雄さん：秋らしい季節に成りました。上田良三さん、鈴木国男さん、江尻寛さん、鈴木直登さん、菱川健司さん、平野浩司さん、滝徳宗さん

本日計 21,000円

累計 281,500円

【ロータリー財団】

本日計 2,000円

累計 380,165円

【ポリオプラス】

本日計 2,000円

累計 27,600円

【米山記念奨学会】

本日計 2,000円

累計 283,000円

